



会報 第40号
— 発行者 —
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
— 編集 —
同上編集委員会
— 印刷所 —
(株)井上総合印刷

育てる



同窓会会長

菅谷 善六

会員の皆様には、晴れやかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げますとともに、旧に倍する輝かしい年でありまうようにご祈念申し上げます。

昨年十月には台風十八号による関東、東北広域水害による甚大な被害を蒙りました。被災された方々の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

さて、母校も平成二十九年には、百周年を迎えることになりました。昨年十月に、第二回の百周年記念事業準備委員会の会合を持ち、今後の経過と、今後の進め方について検討しました。

主な事業内容は、一、同窓会館改修

二、百周年記念誌の発行

三、記念音楽鑑賞会

四、創立八十周年記念樹碑造成

五、表彰

等を計画しております。

会員の皆様には、何かとご支援、ご協力をお願い申し上げます。

揮される環境を整えてこそ、美しい花も咲き、大きな実も結ぶ。

人を育てる基本も同様ではなからうか。

お互いが親として、あるいは先輩として子や後輩の育成に努める。その場合その場合大切なのは、やはりそれぞれの子や人が持っているやる気、力を大事にし、高めること。本人の自主的な意欲と力が存分に発揮されてこそ、他人の教も本当にその人の血肉となって身につく、逞しい成長ははかられる。

ネコの顔ほどの庭に草花を育てて二十年。

草花でも、果物でも植物を育てるにあたって大事なことは、それぞれの草花が本来もっている活力、生命力をできる限り生かすことだということ。全くなければ枯れてしまう。水や肥料も、やり過ぎは禁物、適度な手入れで、その生命力が最大限に発揮される。

家庭で学校で職場で、何とか育ててやろう。伸ばしてやろうと願うあまり、かえって本人の育とう、伸びようという意欲力の発揮を押さえつけてはいないか。育てようとしていて、本人の伸びる邪魔になっていないか。

躍動の春、果樹園の木々、野の草木に、みずみずしい芽が顔を出している。

同窓会会報の発行



PTA会長

小玉 貴浩

今年度、本校のPTA会長をおおせつかった益子町田野支部の小玉貴浩です。

日頃より同窓会の皆様には、子供達のため、そしてPTA活動のため対して、ご理解と協力を頂き大変感謝申し上げます。

今年度も、北陵祭においてPTA食堂を開催いたしました。旧PTA役員の方々と現PTA役員の方々の協力のあり、無事に大成功することができました。この食堂を、北陵祭の一つの名物としていけるようにしていきたいと思っております。

伝統ある本校の持久走

大会には、PTAとして豚汁作りをしており、子供達に「ゴールしてから楽しみ」の一つ、「とてもおいしかった」という言葉と共にあったという間にたくさん作った豚汁も完食してしまいました。私達も作って良かったと思えました。こうした、たくさんさんの感動を与えてくれる子供達の言葉や笑顔が、PTA活動をしていく中で大切なことではないかと感じております。

最後に、今後ともPTA活動にご指導ご鞭撻を頂けますようお願い申し上げます。

青年部部長 あいさつ

平成十七年度卒
野原 恵理子



平成二十七年四月より青年部部長をしております野原恵理子です。

この度、会報の発行にあたり、御挨拶申し上げます。

日頃より青年部の諸活動に對しまして、同窓会の皆様を始め、先生方には、御指導、御協力を頂きまして誠にありがとうございます。

同窓会青年部の活動として、学校祭などの様々な行事に参加したり、視察研修などを行ってきいております。

しかし現在、青年部の人数が減少傾向にあり、行事への参加、イベントの実施が困難になってきております。

今年、卒業される方で、協力できるという方は、是非活動に参加して頂きたいと思っております。

最後になりますが、今後とも青年部をよりよくお願い致します。

「感謝」



校長

大木 高之

同窓会の皆様には、平素より本校教育活動に對しまして格別のご支援とご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

はじめに、今年度も本校生徒の目覚ましい活躍が展開されましたので、その主な成果についてご報告いたします。部活動関係ですが、ライフル射撃部が今年も各種大会で大きな成果をあげてくれました。特に、第七十回国民体育大会和歌山国体

では、三年二組の伊豆井拓実君が一〇mビームライフル少年男子個人立射三〇発競技で準優勝、二年三組の野口早也佳さんが一〇mビームライフル少年女子個人立射四〇発競技で同じく準優勝、また、二年四組の木村圭吾君が一〇mデジタルピストル少年男子立射四〇発競技で八位入賞を成し遂げてくれました。さらに、関東高等学校ライフル射撃競技大会のビームライ

フル少年女子で野口早也佳さんの個人優勝をはじめ、少年女子団体三位、個人においても多くの入賞者を出しました。柔道部では、三年五組の小林里菜さんが高校総体栃木県予選会において第二位、一年二組の板橋力弥君が県高校一年生柔道選手権大会において準優勝という成果を残しました。野球部においては十三名という少ない部員で夏の高校野球選手権栃木大会に臨み、一回戦、古豪小山高校と対戦し、見事勝利し、続く二回戦で強豪宇都宮文星高校に敗れたものの中盤まで接戦を演じたという活躍を見せられました。さらに、卓球部は全国高校総体県中部支部予選会で二年三組の

小熊瑞さん・二年三組の武田睦美さん組が女子ダブルスで三位、県高校総体中部支部予選女子学校対抗で準優勝の結果を残しました。一方、文化部においては、吹奏楽部が県コンクール高等学校の部B部門において二年連続で金賞を受賞しました。部差で東関東大会への出場は叶いませんでしたが、この悔しさをバネに来年度は出場を叶えてくれるものと期待しています。

このように、他の部活動を含め本校生徒は、冬の寒さや夏の暑い最中の練習に耐えて成果をあげています。今後の活躍に一層期待したいと思います。

次に、各専門学科の成果について紹介いたします。第六十六回日本学校

農業クラブ全国大会において、農業鑑定競技「農業機械コース」で農業機械科三年の藤沼岳志君が見事最優秀賞を獲得しました。また、五年に一度開催される日本ホルスタイン共進会北海道大会に本校の乳牛（ホウリョウ・ウイロン号）と生物生産科三年の石川太誠君、小林萌子さん、安場修華さんの三名の選手が出場し、本校の乳牛が第四部二等賞、全国高校生リードマンコンテストにおいて安場修華さんが高校三年生の部ベストリードマン七位入賞を果たしてくれました。食料科学科では、地域資源とも言えるイチゴを原料にした商品開発に取り組んでおり、特に昨年グ

ランブリを受賞したイチゴ飯バーガーの反響が大きく、道の駅や各種イベント等での製造販売の依頼を受け、地産地消のPR活動を積極的に展開しています。総合ビジネス科では、昨年度より課外授業を実施して全商検定を中心とした高度資格取得のための取り組みを行っています。その成果として、一・二年生の全商簿記検定については、三級が百％合格、二級においても百％に近い合格率となっており、着実に実績を積み上げています。そして、教養福祉科は三年間の学習の集大成となる介護福祉士の国家試験に挑戦し、合格者が九十六％という実績を残しました。また、来年度から実

施される介護技術コンテンツの県大会を目指して、高い介護技術の習得のために意欲的に授業に取り組んでいます。

最後になりましたが、今年度の三年生の進路状況について報告いたします。就職については今年度も売り手市場が続いており、昨年以上の求人依頼があり、特に一回目の試験で内定を受けた生徒が九十％を超え、昨年より早い段階で希望者一〇六名全員が内定するという好調な就職戦線となりました。また、進学者については、四年制大学十一名、短大が六名、県農業大学校を含めた専門学校等が五〇名となっています。

結びに、先に述べまし

た日本ホルスタイン共進会の出場に際しまして、本校OBの酪農家の皆様から多大なるご支援があったことを紹介いたします。県の共進会において本校の快挙を知ったOBの方々が中心となって寄付金を集めていただき、発起人である國母孝至様をはじめ、大島浩様、柳文男様、小倉通保様が来校され、校長室におきまして激励会を兼ねて支援金の贈呈を受けました。生徒たちには大きな励みになったのは勿論ですが、改めて同窓生の母校愛と百年を超える本校の伝統の重みを強く感じるものができました。本当に感謝を申し上げます。

いよいよ、平成二十八年度からは創立一一〇周

年記念事業実行委員会に切り替え、各記念事業につきまして具体的に進行することになります。同窓会の皆様方には一層のご支援・ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。また、皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈りし、ご挨拶いたします。

衆議院議員当選 おめでとうございます



私の現在役職は、
法務大臣政務官
昭和四十七年度卒
衆議院議員 田所 嘉徳

自分自身、衆議院議員になるなどとは思っていませんでしたが、様々な要素と幸運が重なって気が付けば衆議院議員になっていたという感じです。

私は農家の長男として生れ、その当時の風潮は農家の長男は当然農業を継ぐというものでした。ところが、何の疑いも持たず農業高校に進学したわけですが、

しかし、農業を取り巻く環境は大きく変化してきて、専業農家では生活がでなくなっており、高校を卒業すると多くの友達が企業に就職をするようになっていました。

私の場合は、自ら起業して会社経営に成功している先輩の影響を受け、土木建設関係の会社を設立して自営の道を選びました。

そして、仕事の傍ら社会活動に情熱を傾けるようになり、「明るい豊かな社会をつくらう」という合言葉のもとに毎日張り切って活動していた時代がありました。

その延長から、より良い地域づくりのために政治の世界に挑戦してみたいという思いに駆られ、地元市議会議員から県

叙勲おめでとうございます

同窓会に感謝

昭和十七年度卒 荒井 睦夫

私は昭和二十年宇農専獣医学科卒後、農家の長男で戦後困難な時代に新しい活躍を求めて同志と相計り、酪農業を三十年から始め次第に規模拡大し、五十年に三十頭の乳牛を飼養して、黎明期を乗り越えました。五十九年には、同窓会より優良農家の表彰を受けました。現在息子が引き継ぎ成牛五十頭育成牛、十五頭牧草地十ha、日量一tの生乳を出荷しております。また、私は獣医師地域の家畜の診療にも精力的に活動して参りました。更に同窓会の諸先輩から御推薦頂き、四十年五月から五十二年四月迄茂木町議会職員、五十二年十月から平成元年九月迄町教育委員、合計二十四年間公共に奉仕する事も出来ました。平成二十六年三月一日高齢者叙勲で陛下から旭日単光章を授与されました。これ偏に同窓会の皆様のお陰で本当に有難く思います。最後に在校生の皆さん歴史と伝統のある北陵高校で学べることに誇りを持って、健やかに勉学されます様御祈り致します。



旭日単光章拝受に際して母校を想う

昭和三十三年度卒 黒川 英代

去る平成二十七年、春の叙勲に際しまして、思いがけず旭日単光章拝受の栄に浴しました。風薫る晴天の五月十四日、東京霞ヶ関の農林水産省におきまして、勲章並びに証書を頂戴いたしました。

さらに、皇居宮殿におきまして、天皇陛下への拝見の機会を賜り、受章者一同へ労いの御言葉をいただきました。感激の極みであり、生涯の慶びとするところであります。

これも、ひとえに母校の先生方の御学恩、そして、同窓生の皆様の御厚情によるものと、深く感謝いたしております。今後とも、この栄誉に恥じることなく、一層の精進

を重なる所存でありますので、何卒、従来にましの御指導、御鞭撻のほどをお願い申し上げます。

これまで、南河内土地改良区理事長などの職を仰せつかり、微力ながら土地改良事業の仕事に携わってきたことをお褒めいただいた受賞であり、旧南河内町(下野市)の土地改良事業に関わってきた全ての皆様の働きを評価下さったものと考えております。

旧南河内町におきましては、かつて、幹線水路江川用排水路の改修工事や、江川五千石地区の圃場整備事業などの課題が山積みしておりました。



市議会議員・町会議員当選 おめでとうございます



本校在校生の皆様へ
昭和三十五年度卒
金澤 良司

「八幡が丘の学舎に集い勤む我等こそ正しき道のしるべなれ」の校歌のもと昭和三十五年度に母校を卒業してから五十八年もの歳月が過ぎています。当時我が家では米と麦の米麦中心の経営でした。今日と違っています。稲麦とも「カマ」で刈り取りその時期は毎夜脱穀作業をしました。昭和三十九年よりパイプハウスでのイチゴ栽培が始まり稲作中心の経営からイチゴを取り入れた複合経営と変わりました。昭和五十四年には第二次構造改善事業により大型ハウスの建設によってイチゴ栽培からトマト栽培に移行し、以後水稲+トマト栽培となり現在に至っています。その様な中、平成七年に地元有志の皆様より推され協和町議会選挙に立候補し初当選を果たしました。

植物は、栃木県では絶滅したと考えられていたもので、全国的にも希少で、ほかには、愛知県でしか自生していません。現在、その保存活動を推進しているところであり、かつて、母校で授かった知識や技術は、これらの仕事に、とても役立っております。

末輩ながら、母校の益々の発展と、先生方、同窓生の皆様、在校生諸君の御活躍をお祈り申し上げます。



以後町議三期をつとめ、平成十七年旧下館市、関城町、明野町、協和町の合併があり筑西市が誕生しました。合併後、初の選挙にも立候補し、当選をさせていただきました。平成二十三年に四期を勤めて引退しましたが、平成二十七年の統一地方選に於て地元の有志に推されて立候補し、当選して五期目の議員として在籍しています。現在、全国的

に少子化の影響で筑西市の人口も減り続け、合併時の平成十七年に一四六六〇人あった人口が、合併十年を迎えた今日では一四四六〇人と、合併時に比べて一〇〇〇〇人の減少となっています。この人口減少傾向は、全国的な傾向とは言え市の発展に大きな影響を与えています。少子化の時代が続く事が予想されるので今後も、人口減少が続き、この状況を少しでも改善できるのは、子育て支援等の拡充と共により、市内に働く場所を提供し、住みよい環境を作ることが行政の大きな課題でもあり、私達の務めと思っています。私も農業を始めて五十数年が経過しますが、何事にも信念を持って最後までやりぬく精神力が最も大切ではないかと思えます。その先にはきっと明るい未来が見えて来ます。山形県米沢市にある上杉神社に上杉鷹山の家訓「なせば成るなせば成らぬ何事も成らぬは人のなさぬなりけり」と言う碑があります。人生は信念を持って事にあたれば、何事も成り立つと言う意味だと思います。最後まで信念を持ってくじけずあきらめず一歩一歩目標に向かって歩んで下さい。



真岡市議会議長就任過程について

昭和三十七年度卒 海老原 宏 至

私は昭和三十七年度に真岡農業高等学校を卒業しました。卒業してから五十四年経過して居り半世紀を振り返ってみて、色々なことが、思いだされます。スクールバスにて、農場へ実習に通ったこと、農場当番で宿泊体験をして自炊したこと、味噌汁が美味しかったこと、いた想い出があります。農業クラブ活動、測量の県大会やテニサーによる耕起作業競技大会など、活発に実施されておりました。真岡農業高校の校舎は、現在の工業高校の場所でもあります。農場に校舎を移転した時のPTA会長が私の父でありました。現在の真岡北陵高校であります。私ですが平成七年四月に二宮町の議会議員に大志を抱き立候補しました。八十戸の自治会に四名の候補者が出馬しており組内に二名の候補者による激戦区でありました。選挙活動の厳しさは身を持って経験され、ストレスの重圧に耐えられないのではと、今思えばよく頑張ったことと思います。これも偏に、家族、地域住民の御支援により、現在工業高校の十三日、市議会臨時会が開催され、定数二十一名により議長の選挙を実施されました。議員十九名の選挙によりまして第六十一代真岡市議会議長に就任できましたことは、身に余る光栄であります。と共に責任の重大さに身の引き締まる思いであります。議員の皆様は感謝を申し上げます。

国際活動と議会活動

昭和三十七年度卒 和 久 和 夫

真農高教育のモットーである、世界に通ずる農業人を目指していた私は、政府が明治百年記念事業として実施した青年の船に参加し、世界各国の青年代表と共にアジア諸国を二ヶ月間に渡って訪問し、貴重な経験をした。帰国後参加者を代表して皇居に参内し、皇太子、美智子様は青年の船事業のご報告を行った。両殿下から、国際交流、社会貢献に努めるようにとのお話があり、久隆国の国際交流事業の推進に努めた。そして多くの国を親善訪問すると共に、アジア青年会議、国際連合本部と活動の幅を広げて行った。



議員当選

昭和四十一年度卒 小 泉 栄 一

平成二十七年四月に行われた、市町議会議員選挙に立候補をして、皆様のご支援をいただき、当選することができました。振り返れば、平成十九年に町議会議員に立候補させていたからには、三回目の議員当選となりました。その間、総務民生常任委員長や副議長、議長の職を全うすることができ、これもひとえに、皆様のご支援とご協力がありましたことと感謝申し上げます。議員一期目の、平成二十三年三月には、東日本大震災が発生し、中学校をはじめ多くの施設が甚大な被害を受け、復旧復興に力を注いでまいりました。

芳賀町議会議員として

昭和四十四年度卒 岡 田 年 弘

平成二十七年四月の統一地方選挙に立候補させていただき、町民の御理解とお力添えを賜り初当選することができました。芳賀町は七割が水田地帯の他に梨、野菜等を多く生産されている豊かな町です。西部の丘陵地帯に於いては、芳賀工業団地が形成され、百社を超える企業が立地されております。この度、宇都宮市とLRTへ次世代路面電車の計画を進めておりこの程、新会社「宇都宮ライトル株式会社」を設立しました。一歩前進を

芳賀町議員として

昭和三十七年度卒 大根田 弘

私は、昭和三十七年に栃木県立真岡農業高等学校を卒業し早くも五十年余りが過ぎ、当時私が通学していた校舎も農場も代わり、そして名称も栃木県立真岡北陵高等学校と他校に劣らない学校になっており誇りに思います。同級生の方から芳賀町議員立候補の打診がありました。考えた末立候補を決意しました。立候補の切り一週間前でした。それからの準備となり組織作りから慌しく動き出しました。事務長さんはじめ地域の方々が、役割分担に快く協力していただいた事で、選挙体制が整いました。何事にも始めてのことを手をこまねいていましたが、選挙関係に詳しい方が率先して動いていただいたので心強い限りでした。役場に出向いて書類の作成、名刺作り、ポスターの写真撮り等、一つ一つ対処していきました。私は、

健康で福祉あふれた町づくり

- 福祉の充実
- 健康づくりの推進
- 農業の振興

おお ね た 大根田ひろし



議員当選
昭和四十七年度卒
高橋 家光

私こと、この度益子町

議会議員選挙において、初当選の栄えを浴することになりました。これもひとえに皆様方の温かいご支援の賜物と、心より感謝いたしております。

このうえは、甚だ微力ではございますが、皆様方から頂きました信任に応えることが出来ますよう、精一杯努力する覚悟で御座いますので、今後とも、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

現在、人口の急減、少子高齢化、東京一極集中、地域の疲弊と言う我が国が直面する大きな課題に対して政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう「まち、ひと、しごと創生」の取組みが始まりました。

地方創生では、大きく三つのポイントが示されています
①若者の就労、結婚、出産の支援
②東京への一極集中は地域の尊重
③地域の尊重
これらの課題に、各市町村では「地域らしさ」を取り入れた『地方人口ビジョン』『地方総合戦略』の具体的な施策立案に取り組んでいると思いま

す。

国は今回、やる気のない自治体には支援しないと述べています。このことは、市(町)全体で情報を共有し、策定、実施、検証、見直し(PDCA)を協同で関わる体制を構築し、高い実効性を確保する事が大切です。

言い換えると、各自自治体間での競争です。機能維持が困難になれば『自治体消滅』の危機にさらされます。

私も微力ではありますが、が、産、学、民、金が共同で「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルを断ち切るため取組んでまいります。

また、北陵高校においても学校の特性を活かした地域活性の取組みも考えられると思います。今、農業を一次産業としてだけではなく、一三次まで一体化した六次産業として農業の可能性を広げようとしています。



益子町議会議長就任
昭和四十八年度卒 廣田 茂十郎

昨年五月の益子町議会臨時会において議長に就任させていただきました。

議長としての責任の重さを、ひしひしと感じながらも、議会改革を進め、開かれた議会、町民に信頼される議会にするため日々、奮闘している所です。

思うに、私がこうして議員になれたのも、議長の立場で活動が出来た事も、真岡農業高校時代に学んだ事、友情を培ってきた事が礎となっている

と常々感じています。私は在学中、実に多くの事を学び、貴重な体験をさせていただきました。その中で、農業クラブ活動の体験は、私の卒業後の人生に大きな財産として生きています。県連盟の会長として、県内はもとより、全国の各種事業や大会に参加させていただきました。その中で、組織運営の仕方、会議の持ち方、役員のまとめ方や人への接し方、又、全国大会等で学んだ各地の



校訓を思う
昭和五十七年度卒 大瀧 和弘

ついでこの間のようで、

実は結構な年月が経過していることを改めて感じています。卒業して早三十四年、家から学校までのこの距離を、よくも自転車で行ったものだ、我ながら感心している。雨の降る日も風の吹く日も、そして冬、雪の降る寒い朝だ、元気に登校した。バスケットボール部で友と汗を流した高校生活であった。下校時には、近くの店に寄り道して帰るのが友との日課になっていた。

そして三年間無遅刻無欠席で、皆勤賞となった。これまでもあったような賞状よりも嬉しかった。このことは今でも誇りに思っている。高校の入学時には誰かに保証人を依頼しなければならぬ。当時父は、自分の恩師に保証人をお願いすると言った。父と一緒に、真岡市内にあった先生宅を、緊張しながら訪れたことを覚えている。そこには小林善藏先生という父の恩師がいた。そこで初めて

それら、諸々の体験や学びが、卒業後の地域活動や社会活動にひいては、私自身の人生のあり方そのものの基礎となっていると思うのです。又、それらの活動を通じて多くの友情を培ったことのできた事も、私の大きな財産です。

私が、今の立場で活動できるのは、まさに真農時代に培われた礎があるからと思うのです。「今日あるを感謝し、最善を尽くす」を肝に銘じ、議会活動に、そしてこれからの人生を過していきたいと思います。

聞いた言葉「今日あるを感謝し最善を尽くす」これが真岡農業高等学校の校訓だと話してくれた。学校に行くことこの言葉が石に刻まれてあった事に驚いた。当時、その意味をどれだけ理解していたかは分らない。何気なく聞き流していた校訓、しかしこの短いフレーズがそれからの人生の礎になろうとは当時想像もしなかった。いま、静かに当時を振り返ってみると、本校で学んだ三年間が今



議員当選
昭和六十年度卒 榎 毛 隆行

昨年四月二十六日に行

われしました真岡市議会議員選挙におきまして、皆様のご支援により、初当選を果たすことが出来ました。心より感謝申し上げます。

私は、本校卒業後、日本大学、施設園芸の資材メーカー勤務を経て、平成十年三十歳で就農し十七年が経ちました。この間に環境にも恵まれ、多くのことを学び、経験することが出来ました。特に、講師として呼び頂いた講演会では、農業における多くのトップランナーと出会うことが出来ました。そこで改めて、農業には、「食糧の生産」以外に、現在日本が抱える

様々な問題を解決する可能性を秘めていることを実感しました。ところが、現在農業は、生産者の減少や高齢化によって、地方自治体は競争の時代に突入したと言われています。この競争に勝ち残るためには、地域にあるあらゆる資源を有効に活用し、先駆的な施策を展開していくことが必要だと言われています。

微力ではありますが、今までの経験を活かし、「選ばれたまち 真岡」の実現に向け、努力して参りますので、今後共、皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

叙勲受章・議員当選

◆叙勲おめでとう

篠原 英雄 様

猪野 正子 様

◆市議会議員・町会議員当選

おめでとうございます

【真岡市議会議員】

服部 正一郎 様

藤田 勝美 様

柳田 尚宏 様

高野 美晴 様

【益子町議会議員】

伊澤 秀男 様

【芳賀町議会議員】

岩村 治雄 様

大島 浩 様

小林 一男 様

【市貝町議会議員】

山川 英男 様

【上三川町議会議員】

松本 清 様

貝賀 芳夫 様

志鳥 勝則 様

伊澤 秀男 様

高野 美晴 様

優良同窓生紹介

我が家の農業経営



昭和五十年卒業
田村 利信

真岡北陵高校（旧真岡農業高校）を卒業後、家の農業を継ぐため就農して四十一年、優良同窓生として表賞していただき誠に光栄に思います。

卒業当時は、プリンスメロンを一・二ヘクタールを中心に、白菜、ニラ、春菊などの露地野菜を、一ヘクタール、稲作を、一・五を作付経営してき

ました。昭和六〇年頃からネット系のメロンの推進があり、青肉のタカミメロン、赤肉のクインシーメロンを栽培してきました。

平成十年の頃から消費者に直接提供できたらと直売販売を始めました。

現在は、妻と両親、子供にも手伝ってもらい、赤肉のラブミーメロンと青肉のクインシーメロンを



真岡市 田村農園
真岡市 田村農園
真岡市 田村農園

グランプリ大賞受賞

平成八年度卒業

小島 哲史

私は平成七年度に本校の生物生産科の一期生として卒業し、県立宇都宮白楊高校農業特別専攻科へ進学と共に、地元でトマトロックウール養液栽培をされていた篤農家さんの元で二年間研修させて頂き、沢山の知識や技術を学ばせて頂きました。

当時の我が家は、水稲と麦を栽培する兼業農家でしたので、私がトマト栽培の一代目として平成九年よりスタート致しました。いざ栽培を始める

と、様々な壁にぶち当たりましたが、研修先の先生や沢山の周りの方々に助けて頂きながら、数年後にはなんとか軌道に乗せる事が出来ました。

と、様々な壁にぶち当たりましたが、研修先の先生や沢山の周りの方々に助けて頂きながら、数年後にはなんとか軌道に乗せる事が出来ました。

と、様々な壁にぶち当たりましたが、研修先の先生や沢山の周りの方々に助けて頂きながら、数年後にはなんとか軌道に乗せる事が出来ました。

と、様々な壁にぶち当たりましたが、研修先の先生や沢山の周りの方々に助けて頂きながら、数年後にはなんとか軌道に乗せる事が出来ました。

と、様々な壁にぶち当たりましたが、研修先の先生や沢山の周りの方々に助けて頂きながら、数年後にはなんとか軌道に乗せる事が出来ました。



各科の近況

農業機械科

科長 藤田 将輝

農業機械科の生徒活動状況と学科の取り組みについて、紹介します。

① 平成二十七年十月二十一日に群馬県立勢多農林高等学校で開催された「第六十六回日本学校農業クラブ全国大会」群馬大会、農業鑑定競技会（区分 農業機械）において、農業機械科三年・藤沼岳志が最優秀賞を獲得した。藤沼は七月上旬の校内農業鑑定競技で本校代表に選ばれてから、夏休みも返上し朝早くから夕方まで、農業機械の構造や

② 平成二十七年六月二十日（日）Honda Ecoマイレッジチャレンジ二〇一五第七回もてぎ大会に五十名がバイク部門に参加した。課題研究にて、五十名バイクは近所の農家で三年以上も放置されていたバイク（ホンダ スーパーカブ緑）をメンテナンスして大会に臨んだ。昨年は、大会前の事前審査を行っていたとき、バッテリーが破損して「棄権」というこ

③ 平成二十七年七月二十八日（火）に栃木県庁で開催された「平成二十七年度起業者精神育成事業コンペティション」において、農業機械科三年・藤沼岳志、青木敬寛、高橋秀一、中谷将輝、一年・石塚颯太、板橋力弥、上野結希、岡本翔真、小関奈都希、高橋美紀、寺崎亮太、野澤品俊が「無人アイガモロボット農法の開発」という題目で発表し、みごとコンペを勝ち抜いて最終発表へと進出した。

④ 平成二十七年十月二十一日（水）に群馬県中之条町・町宮グラウンドで開催された「第六十六回日本学校農業クラブ全国大会」群馬大会、平板測量競技会において、農業機械科三年・上野英明、上野敦紀、杉山誠人、八木有隆の四名が、栃木県代表として参加した。入賞はできなかったが、全力を尽くしてきた。今回の雪辱を後輩たちに託し、全国入賞できるように指導も行っている。

⑤ 平成二十七年十月二十一日（水）に群馬県立勢多農林高等学校で開催された「第六十六回日本学校農業クラブ全国大会」群馬大会、農業鑑定競技会（区分 農業機械）において、農業機械科三年・藤沼岳志が最優秀賞を獲得した。藤沼は七月上旬の校内農業鑑定競技で本校代表に選ばれてから、夏休みも返上し朝早くから夕方まで、農業機械の構造や

⑥ 平成二十七年十一月七日（土）に栃木県立県立産業技術専門校で開催された「とちぎものづくり技術大会」において、農業機械科三年・藤沼岳志、相田統哉、上野英明が栃木県総合教育センターで行われた表彰式に参加した。その後、全日本学生児童発明工夫展（全国大会）に出展することになった。栃木県代表として、良い結果を願っている。

⑦ 平成二十七年十一月七日（土）に栃木県立県立産業技術専門校で開催された「とちぎものづくり技術大会」において、農業機械科三年・藤沼岳志、相田統哉、上野英明が栃木県総合教育センターで行われた表彰式に参加した。その後、全日本学生児童発明工夫展（全国大会）に出展することになった。栃木県代表として、良い結果を願っている。

⑧ 平成二十七年十一月十六日（火）第六十五回栃木県児童生徒発明工夫展において、「自動灌水器付きプランター」が金賞となり、代表で農業機械科三年・藤沼岳志、相田統哉、上野英明が栃木県総合教育センターで行われた表彰式に参加した。その後、全日本学生児童発明工夫展（全国大会）に出展することになった。栃木県代表として、良い結果を願っている。

⑨ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑩ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑪ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑫ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑬ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑭ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑮ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑯ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑰ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑱ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑲ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」

⑳ 平成二十七年十二月十八日（金）平成二十七年年度アグリマイスター顕彰制度の申請において、「アグリマイスタープラチナ」（二名）三年・藤沼岳志、「アグリマイスターゴールド」（二名）三年・小池正悟、高原一樹、「アグリマイスターシルバー」



栃木県児童生徒発明工夫展・金賞



宇都宮大学工学部との研究打合せ

（五名）三年 相田統哉、伊豆井拓実、稲毛裕大、高橋秀一、桃原昂次。計八名が該当している。アグリマイスター顕彰制度とは、「全国の農業系学科等に在籍する生徒が目的を持って意欲的に学習に取り組むことを促すには、生徒が身に付けた知識・技術・技能を積極的に評価することが重要である。そこで、本協会では、農業系学科等生徒が日頃の農業学習や職業資格の取得、技術・技能検定の合格及び農業クラブ活動・競技会を通して、農業に関する知識・技術・技能を習得し、自信と誇りを持って、産業界で活躍できるよう励ますことを目的として、アグリマイスター顕彰を実施する。」（全国農業高等学校長協会より）以上の取り組みである。本学科の生徒も資格取得に力を入れて取り組んだ結果、八名が認定となった。今後も実践的な資格取得に取り組んでいきたいと思う。

以上のように農業機械科で習得した技術を発展させて、各種大会に参加している。今後も地域に貢献できるような人材育成に取り組んでいきたい。

生物生産科

科 長 後 藤 至 人

生物生産科におきましては、「農業経営や農業関連産業のスペシャリストになる」ことを目標としており、以下の三つの方針を掲げ、学習活動に取り組んでいる。

①栽培や飼育、農業経営に関する知識や技術を学習し、農業及び農業関連産業に就くために必要な能力・態度を学ぶ。

②農業実習・研修、農業クラブ活動、ボランティア活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力や問題解決能力を身につける。

③農業や環境を主体とした幅広い能力を養い、地域に貢献できる人材の形成を目指す。

これらの方針に基づいた平成二十七年の具体的な活動について以下に報告する。

【農産物生産】

昨年度より始めたスカイベリーの栽培管理を行い、さらなる課題を明確化することができた。定期的な販売会として恒例のおしゃらくマルシェでは、ナシ・ブドウの販売を行い、地域の方々の好評を得ている。また、新たな試みとして、十一月七日の学校祭一般公開において農産物販売会を行い、十一月二十四～二十七日にシクラメン販売会を行った。その他、県庁や地域の産業祭で販売実

【ボランティア活動】

十一月四日の「ヒューマンフェスタ」とちぎ二〇一五 in 真岡」来場者に配布するビオラ八〇〇株の生産を夏から行い、当日はシクラメン・野菜販売を行った。

【農業実習・研修】

九月十一日には三学年作物選択生徒によるイネの栽培管理について、NPO法人民間稲作研究所を見学させていただき、九月二十五日には同じく三学年の草花選択生徒によるシクラメンの栽培管理について、日光市のイッセイ花園様にご教授いただいた。

九月七日～十一日には二年生のインターンシップを実施し、本学科では二十五件の農家・事業所様のご厚意により、研修を実施することができた。しかしながら、台風の影響により、一部実施できなかった。

十二月十八日には一年生による大学・先進地見学として、帝京大学、農業試験場いちご研究所の見学を行った。

【各種大会】

第十四回全日本ホルスタイン共進会北海道大会においては、ホクリヨウロング ウイゴウ ウィンが、二等賞六席を獲得するとともに、三年石川大誠がリードマンコンテスト七位に入賞することができた。農業クラブのフラワーアレンジメント競技会では、二年柴山奈々が優秀賞をいただいた。

「ヒューマンフェスタ」とちぎ二〇一五 in 真岡」来場者に配布するビオラ八〇〇株の生産を夏から行い、当日はシクラメン・野菜販売を行った。

九月十一日には三学年作物選択生徒によるイネの栽培管理について、NPO法人民間稲作研究所を見学させていただき、九月二十五日には同じく三学年の草花選択生徒によるシクラメンの栽培管理について、日光市のイッセイ花園様にご教授いただいた。

九月七日～十一日には二年生のインターンシップを実施し、本学科では二十五件の農家・事業所様のご厚意により、研修を実施することができた。しかしながら、台風の影響により、一部実施できなかった。

十二月十八日には一年生による大学・先進地見学として、帝京大学、農業試験場いちご研究所の見学を行った。

昨年度の報道サミットに引き続き、地域の方々の活動を継続して実施しているほか、今年度も益子町山本地区の花壇づくりに参加し、活動後にはおいしいピザをいただいた。

今後とも地域との関わりを充実させながら、将来にわたって地域で活躍できる人材の育成の一翼を担っていただけるよう、生物生産科職員生徒ともども努力していきたい。



真岡小学校児童と地域の緑化活動



益子町山本地区での花壇づくりボランティア



リードマンコンテスト7位入賞の石川大誠

食品科学科

科 長 大 塚 昌 法

食品科学科では、「食品関連企業への従事者を養成する学科」として、農産物や畜産物の加工や製造技術及び販売指導を重点目標に学習します。

パン類では、食パン・フランスパン・クロワッサン・メロンパン・クリーマパン等を、めん類では、そば・うどん・パスタ・中華めんを、ジャム類では、イチゴジャム・ブルーベリージャム、リンゴジャムを製造します。肉加工品では、ベーコン・ウィナーソーセージを製造します。また、スポンジケーキを製造し、それを使ったデコレーション実習も行います。生徒の手作りによる味噌を中心とする加工品は、北陵祭において例年お客様の長蛇の列ができるほど盛況で、地域の方々から広く利用頂いています。今年度は農場祭が北陵祭と抱き合わせで実施されることになり、例年にも増して多くのお客様にお越し頂いたものの、販売に手間取りご迷惑をおかけしてしまいました。

一年生は、毎年、県内外の先進的な食品企業の工場見学研修があります。今年度は茨城県守谷市にある明治乳業のある館とつくば市の食と農

の科学館にて研修を行いました。二年生は九月にインターンシップ推進事業を実施しました。勤労意識の涵養あるいは食品関連産業技術者の育成をねらいに、真岡工業団地及び清原工業団地の食品関連企業、宇都宮市内や真岡市内及びインターパーク内店舗、真岡市内菓子店、各スーパーの総菜店等で生徒は体験実習を行いました。また、十二月にはキャリア支援事業として、調理専門学校での洋食実習の指導を受けました。三年生は七月に専門学校体験学習会が実施され、専門学校での授業や実習の様子と充実した設備を見学しました。また、キッチンスタジオにて、洋食やスウィーツの調理実習を体験しました。

各資格取得の指導は、食生活アドバイザー3級、ボイラー取扱技能講習、危険物取扱者資格内種・乙種、ワープロ検定等にチャレンジし、大きな成果を上げています。特に学科として最も力を入れている食生活アドバイザーの2級合格者が数名で、これは、学科はもちろんのこと、後輩達にも大きな影響を与えることとなりました。

農業クラブの活動では、プロジェクト発表で優良賞、意見発表では食料生産と文化の二部門に県大会出場をたし優良賞を受賞した。また、農業クラブ全国大会の農業鑑定競技食品化学コースに出場したが、入賞はなかった。

で実施された『とちぎ元氣クルマ祭りthe Final』において、グランプリを受賞した『いちご飯バーガー』の反響は大きく、今年度においても各種イベントや取材協力の依頼を受けた。イベントは「真岡木綿まつり」、「おやまグルメフェスタ」、「フードバレーとちぎフェスティバル」、「真岡市大産業祭」の四つに出展し、いずれも大きな成果をあげた。なかでも、道の駅しもつけで行われた「フードバレーとちぎフェスティバル」においては、福田栃木県知事より直接激励の言葉を頂いた。メディアにおいては、とちぎテレビや朝日新聞、下野新聞、真岡新聞などから取材を受けた。こういった食品科学同会の活動は、栃木県レベルでも高い評価を受けるなど、北陵高生として大活躍だった。



2年 キャリア形成支援事業（洋食実習）



1年 先進地見学（食と農の科学館にて）



食品科学同好会のメンバー福田知事と「フードバレーとちぎフェスティバル」（道の駅しもつけにて）



3年 専門学校見学体験研修会（TBC）

総合ビジネス科の二十年を振り返って

科長 石川 比呂

平成七年の学科改編に伴い、商業科が設立され、校名が栃木県立真岡北陵高等学校と変更になり、二十一年が過ぎました。前年度の平成六年に中学校関係者に行った説明会の様子は二十年以上たった今でも鮮明に覚えています。当時、私は真岡高校商業科に勤務していましたが、芳賀郡に女子が学べる商業の専門高校をという地域の強い要望があったと記憶しております。それに応えるべく、男女共学の真岡農業高校に商業科を移転（当時はそのように説明して）することになり、真岡高校商業科の閉科を担当する学科長として説明会に参加しました。一通りの説明を終えて質問を受ける場面が、予想外の状況に出会いました。質問が次から次と途切れることなく噴き出しました。福祉科と商業科の新しい二つの学科

あふれる学科だったのです。学校の場所が変わるだけで、内容は全て実践しようという言葉を閉校式の準備にかかりました。国立私立大学をはじめとする有名私立大学への進学、金融機関・事務職・公務員への就職、部活動での活躍等、地域の期待に応えること、将来は地域社会に貢献できる人物を育てることを大目標に北陵高校の商業科（最初はビジネス会計科と情報処理科）は発進しました。地域に貢献する人物を輩出することは北陵高校の商業科を背負って立つ人物が母体で教鞭を執ることと卒業生を出すこととを考えると、一人の商業科の教師は未だ一人の商業科の事態を打開すべく、平成二十六年の入学生（現在の二年生）から北陵高校商業科の内容を変えました（初心に還ることに）。ただ、資格取得（検定試験の全員合格）するた

北陵の卒業生が北陵高校の商業科で教壇に立ち、先輩が後輩を高い志を持って指導し、地域社会に貢献する人物を輩出するサイクルを確立すべく商業科一同、鋭意研鑽を積んでおります。同窓会の皆様のご協力をお願いいたします。

教養福祉科

科長 松本 歩

超高齢社会となつて今日、質の高い「介護福祉士」が求められている。そのニーズに応えるため、教養福祉科が平成七年に設置され、今年で二十年目となる。教養福祉科は、福祉系高等学校の趣旨に沿って、介護福祉士国家試験の全員合格を目指すことで信頼される「介護福祉士」の養成に積極的に取り組んでいる。今年度も学習活動の中に、キャリア形成支援事業の活用、地域と連携した多彩な社会人講師による授業を取り入れた。一年生では、短期大学の教授が視覚障害者、聴覚障害者、高齢者施設の職員

等々の講話は、生徒の感性に響き心の変容をもたらすきっかけとなっている。二年生では認知症サポーター養成講座・救急救命講習の授業。三年生では真岡市社会福祉協議会や地域の包括支援センター等の専門職の授業を通して、実践的で専門性の高い内容を学ぶことができ、さらに職業観を育むこととなる。校外学習では、高齢者施設、障害者施設、東京で行われる国際福祉機器展などを見学し、最新の介護の取り組みや福祉機器にふれ刺激となつて、体験的な授業では「生活支援技術」において、

ベッドメイキング・車いす移動などの介助やレクリエーションの技法を学んでいる。平成二十五年の入学生から「医療的ケア」の授業が始まり、痰の吸引や経管栄養等の演習で、高度な技術を要するが、実践力を身に付けている。介護実習では、すべて校外での施設実習になる。一年生ではデイサービスセンター・グループホームでの十三日間、二年生では高齢者施設・訪問介護・障害者施設での十七日間、三年生では高齢者施設・障害者施設の実習を実施する。施設の実習者や技術者の方々から指導や助言をいただき、専門的な知識や技術、社会人としての礼儀など多くのことを学ぶ

このは勿論、やりがいを感じるまでに生徒は成長している。また、介護実習で得た経験を活動に活かす機会も、ボランティア活動にも積極的に参加し、高齢者や障がい者、幼児との交流を図っている。最終的な目標である「介護福祉士」の国家試験を挑戦する。毎年一月の第四週に東京会場で受験が行われる。全国平均の合格率が六十パーセント前後であるのに対し、本科は常に九十パーセント以上の高い合格率を維持している。「介護福祉士」は、専門的な知識や技術を身に付けるばかりでなく、その人らしい生き方への支援に着眼した汎用性の高い技術が求められる。こういった人々に介護されたい」と思われる心豊かな

中学の頃から憧れの生徒会長になるぞ！という勢いで立候補し、当選して早一年がたちました。どちらかというと私は不安より、好奇心とやる気でいっぱいでした。ですが、不安が全くなかったわけではありません。役員と仲良くできるか、新しい仕事を上手くやりこなせるかなど、不安がありました。しかし諸先生方、生徒会役員の皆さんの力を借りながら、この一年間、生徒会として過ごした時間はとても充実していた。私にとってどれも貴重な経験ばかりでした。今ではその経験を糧にして、将来の役に立てたいと思っています。生徒会長になり初めの仕事は予餞会の先輩へのスライドショー作成でした。パソコンが苦手な私にとってとても苦戦した仕事でした。その他に益子特別支援学校との交流会・体育祭・学校祭など、各行事の運営をしっかり行い、自分たちなりに良いものにすることができました。この一年間を振り返ってみると、会長と部活や学業の両立が難しく反省

最後に生徒会活動にご支援いただいた同窓会の皆さん一年間本当にありがとうございました。ありがとうございました。

生徒会長として

三年三組 菅 谷 穂乃果

十二月の役員選挙で新たな会長と副会長が選ばれました。行事の見直しや盛り上げ方法を考える行動してくれることでしょう。

同窓会の皆さんが築き上げた伝統を守りつつ、より良く学校をしていくために役員と共にこれからも頑張っていきます。今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

生徒会活動報告

顧問 谷 中 裕 貴

今年度の生徒会の主な活動を紹介します。四月の部活動紹介では、各部活動がユニフォーム姿や活動で使う道具を用いて、新入生に雰囲気や伝わるように工夫を凝らした紹介をする部が多くありました。生徒総会では生徒会役員の定数の変更が承認されました。五月には益子特別支援学校との交流会を今年も実施できました。畜舎でのウシやブタの見学、イチゴの収穫・試食という流れで生徒会役員と有志生徒で農場見学を通して交流をしました。

六月の体育祭では例年通りの学科対抗の大縄跳び、各種球技を今年度も実施しました。役員は大縄の回数チェックやトリーナメント表の準備、閉会式を担当しました。自分の出場種目と両立して盛り上げていました。また、今年から学年対抗リレーを最後に取り入れられました。各クラス四名を代表にして学年二十人を二グループに分けました。生徒六チームプラス教員一チームの計七チームで勝負をしました。応援がグラウンドに響き、とても盛り上がる事ができました。

十一月六日に開催された北陵祭（校内発表）では日本音楽部、ボランティア部、吹奏楽部の発表の他に海外研修の報告や職員劇など新たな取り組みもありました。また、仮装大会は数年前のように各クラス参加に反して、全体で盛り上げる雰囲気作りをしました。七日に開催した北陵祭（公開）では農産物即売会と一緒に開催したことで例年以上に来校者が増えました。模擬店や展示にも多くの卒業生や地域の方々が足を運んでくれました。ありがとうございました。



デイサービス実習（1年）

介護老人保健施設実習（3年） 医療的ケア実習（2年）



家庭クラブ活動報告

顧問 田崎 朋子

今年度の主な取り組みについて報告いたします。

今年度の本校家庭クラブは、教養福祉科全学年七十九名、うち役員八名が中心となり、家庭クラブのスローガンである「創造・愛情・奉仕・勤労」のもと、活動しています。

一学期は、校内の水道にハンドソープを設置し、全校生にこめぬ手洗いや校中・風邪予防の呼び掛けや、注意喚起を行いました。この活動は年間を通じて行っている活動の一つで、特に風邪が流行る冬場の時期には、十分に立てるように、まめにせっけん液を補充しています。同時に年間を通じて行っているものとして、ペットボトルキャップの回収があります。この活動は、今では家庭クラブ活動の中心となっているものです。夏場は特に暑くなるため、回収量が多く、十月までに一万四千個以上、生徒一人あたり二十

五個以上にも上りました。役員も大変やがいて、感じるとともに多くの方のご協力に感謝しております。今後はその輪が一層広がるよう、学校祭などで特別回収箱を設置する、呼びかけを行う等の意見があり、年度末までにさらに多くを回収したいと役員も張り切っている姿が見られます。その他の活動には、家庭クラブ総会、第一回調理講習会（コアケーキ作り）が行われました。調理講習会では、役員が中心となり、企画・準備・進行を行いました。当日は会員二十名以上が参加し、大変おいしそうなケーキを焼くことができました。

八月六日には、栃木県家庭クラブ連盟総会・リーダー養成講習会に本校代表として秋元会長、塩野谷副会長が参加しました。総会その他、講演会では「栃木県の名産品・結城紬」と題し、栃木県産業技

家庭クラブ会長として

三年五組 秋 元 空



平成二十六年は本校家庭クラブの副会長として、本年度は会長として活動し、早いものは会長として活動しました。会長としての一年間を振り返ってのめると会長になった当初はわからないことばかりで自分に会長が務まるかと役員をまとまられるかという緊張と不安でいっぱいでしたが、先生、役員の仲間など多くの方々に支えられて最後まで会長としての役目を全うすることができました。

会長としてこれまでの先輩から引き継がれたことを大切に、そして新たな取り組みを役員の大きな負担にならない程度に継続的に続けられるよう活動自体を多方面から見つめていく、そういう気持ちで活動一つ一つに取り組みました。

家庭クラブの主な活動内容は年間を通じて行っているハンドソープの設置や液の補充、ペットボトルキャップ回収の他、北陵祭での募金活動、調理講習会などを行っています。その他栃木県の家庭クラブ行事に学校代表として参加してまいりました。私がそれらの活動の中で特に力を注いだものはペットボトルキャップの回収と調理講習会の二つです。

ペットボトルキャップの回収は校内に回収箱を設置してみなさんに協力していただきました。それを途上国の子どもたちにワ

術センター・繊維物セン
ターより吉葉光雄先生、
大田仁美先生からパワ
ーポイントや実物を使っ
て大変わかりやすく楽し
いお話をいただきました。
午後には宇都宮市和大学
教子先生より「コラ
ージュで広げる創作イメ
ジ」というタイトルでオリ
ジナルうちわの製作を行
う体験活動で学びまし
た。ここの活動で学んだこ
とを今後校内の講習会活
動に生かしていきたいと
思います。

二学期は北陵祭にて活
動の展示発表や募金活動
を行いました。また、十
一月後半には役員改選も
行われ、次年度も活動を
行なうことが決まりました。

「希望者も会員の半数以上
の四十六人の講習会は今
後も続けていきたいと思
います。調理講習会のような
学年を超えて交流する機
会は少ないため、こうし
た活動を行うことで繋が
りが生まれ、互いに連携
するきっかけになればと
思います。」

最後になりますが、家
庭クラブの取り組みが今
後も会員だけでなく学校
全体、地域等より多くの
方々に喜んでいただける
よう活動してまいります
と思います。今後ともご
指導、ご支援をよろしく
お願いいたします。

盛り上げにくるようないました。新役員が決定しました。十二月には第二回調理講習会が行われました。毎年人気のあるクリスマスケーキデコレーションを行いました。今年度は新たに生物生産科と食品科学科で作られたイチゴやスポンジケーキを使用したため、他学科の授業内容を身近に感じながらのデコレーション



クチンを届ける日本のNPO団体に寄付するという事業です。限られた資源を有効に活用することでこれらが人を救うということが分かり、大変意義のある活動だと感じました。小さなキャップでも分別することで価値のある材料になるということをもっと多くの人に伝えられればと学校祭ではワクチン一人分のキャップの量の实物を展示したり、これまで集めたキャップの数と何人分のワクチンに相当するかを示した表を作りました。教養福祉科の一員として直接人に関わり役立ちとうするだけでなく、間接的に人と関わり救えることができるこの活動を今後ぜひ続けて欲しいと思います。

もう一つは調理講習会です。今年度はすでに学期に一度行うことができました。いずれも終業式の午後に日程を組み、多くの会員が参加しやすい

時間帯に開催しました。この講習会は、教養福祉科全学年の交流という意味も含めて開催しており、おいしいお菓子や料理を作りながら他の学年ともコミュニケーションを図る活動としても人気があります。今回はこれまでにないような多くの会員に参加していただき、やりがいもひとしおでした。ぜひ、このような皆が楽しんでもらえるような企画を今後もしてもらえたらと思います。

最後になりますが、これらの活動は先生方をはじめ、家庭クラブ役員、会員の皆さんのご支援やご協力があったからこそだと思います。そして今後の活動が真岡北陵高校野ますますの発展へと結びつきますようお祈りしております。三年間本当にありがとうございました。

農業クラブ活動報告

顧問 有村君子

今年度の農業クラブの
主な取り組みについて報
告いたします。

今年度の栃木県学校農業クラブ連盟各種発表大会は、六月に栃木県教育会館で開催され、各校から校内選考を勝ち抜いた代表がプロジェクト発表及び意見発表を行いました。本校からは、いずれの発表も全区分出場し、意見発表、区分「環境」において農業機械科三年の早乙女勇輝さんが優秀賞を受賞しました。他の発表者も精いっぱい日頃の成果を発揮しました。また、県大会の会場運営としても本校農業クラブ役員は区分「食料・生産」を担当し、スムーズな発表ができるよう尽力いたしました。

五月には家畜審査競技会（乳牛の部）が栃木県畜産酪農研究センターを会場に行われ、本校生徒も精一杯頑張っていました。日頃の成果が発揮され、生物生産科三年の石

を受賞しました。

七月には本校を会場に、農業情報処理競技会の県大会が開催され、本校クラブ員は惜しくも入賞とはなりませんでしたが、日頃の成果を精一杯発揮しました。また、本校役員たちが事前準備や大会運営を行い滞りなく競技を進めることができました。

八月には、矢板市生涯学習館においてフラワールレンジメント競技会が、栃木農業高校グラウンドにて平板測量競技会が行われました。フラワールレンジメント競技では、生物生産科三年の柴山奈々さんが「天の川」という作品で優秀賞を受賞しました。また、平板測量競技では、農業機械科三年生の上野英明さん、杉山誠人さん、藤沼岳志さん、八木有隆さんのチームが見事最優秀賞に輝き、十

農業クラブ会長として

三年三組 土井愛望



私が農業クラブ会長になってから、はや一年が経ちました。農業クラブ役員二十名以上と、先生方に支えられ今日まで来ることが出来たのだと実感しています。様々な農業クラブ活動の中で、この一年間もクラブ員がよい成績を沢山残してくれました。まず、農業機械科のチームが平板測量競技会県大会で最優秀賞を受賞し、群馬県で開催された全国大会に出場しました。また、農業鑑定競技会では、同学科の藤沼岳志君が、全国大会で最優秀賞を受賞し、日本一に輝きました。同じ北陵高校の生徒として、クラブ員としてとても嬉しく思っています。これからも、色々な場面でも多くの方に真田北陵高校の活躍を知っていただくことを願っています。

私にとって農業クラブとは、自分を成長させる場だったと思います。県連盟で行われる役員研修会では、栃木県などの農業クラブ役員の人たちと交流を持つことで自分の

いにニュースとなりました。校内行事では、八月下旬から九月にかけての第二第四十曜日に、本校生産のナシやブドウを販売する「おしやらくマルシェ」を開催しました。クラブ役員が販売を担当し、多くのお客様にぎわいました。

とで、嬉しいニュースとなりました。

これら県大会を経て、十月に第六十六回日本学校農業クラブ連盟大会群馬大会が行われ、本校からは、県大会を勝ち抜いた平板測量競技チーム及び、校内農業鑑定競技で学科代表に選ばれた三名が出場しました。それぞれ、夏休みも毎日学校で練習や勉強を行ったりと、県連盟主催の講習会に参加したりと努力を積み重ねて挑みました。本番では日頃の学習の成果を発揮し、農業機械科三年の藤沼岳志さんが農業鑑定競技「農業機械コース」で見事最優秀賞を受賞しました。農業鑑定競技（農業機械コース）日本一は、本校は二年振りとなり、十一月には、収穫感謝祭が農場水田で行われました。天気にも恵まれ、農場で収穫した野菜や米を使ってカレーライスを作り、一年間の収穫に感謝するとともに、クラブ員同士が交流を深めました。また、カレーコンテストでは食品科学科三年生のカレーが最優秀賞を受賞しました。

この他にも、今年一年間を通して様々な活動を行い、クラブ員は充実した日々を過ごすことが出来たと思います。

最後になりましたが、本校の農業クラブ活動を支えていただいている皆様に心からの感謝を申し上げます。今後とも、どうぞよろしく願います。

なり地元新聞でも取り上げられるなど大変うれし

して

組 土 井 愛 望

意見を持ち相手に伝える大切さや、農業クラブをよりよくしていく面白さを学びました。また、行事・大会運営などから、クラブ員をまとめる難しさも知りました。特に、印象に残っているのは、校内行事である「収穫感謝祭」です。この行事は、農場での一年の収穫に感謝し水田で、自分たちで作ったお米や野菜を使ってカレイライス作りをしています。同じ学校のクラブ員同士が交流し、協力して一つのものを作

り上げるとてもいい行事だと思っています。役員は準備から当日の運営、片付けまで大変ですがとてもやりがいがあり、充実した時間を過ごすことが出来ました。今は農業クラブ員だけでやっている行事ですが、将来的に他学科の生徒や地域の方々と交流できる場があれば、もっと地域に開かれた農業クラブになるのではないかと考えています。

私が農業クラブ会長になり、一年間を振り返るとあまり頼りのある存在ではなかったように思います。ですが、役員の協力や先生方のおかげでこの大役を無事果たすこと



農産物直売 おしゃらくマルシェ



収穫祭でのカレー作り



全国大会群馬大会

が出来たのだと感じています。会長になった初めの頃は、実感がなく役員を引っ張っていくのが不安でした。しかし、集まりや役員会を重ねていくうちに自分の意見を持てるようになり、発言もできるようになりました。このような経験が私を大きく成長させました。そして、これからもこのことを生かしていきたいと思っています。

私を農業クラブ会長にしていただき、役員を始め先生方、サポートをしてくださり本当にありがとうございました。



日本学校農業クラブ 全国大会出場おめでとう

平板測量競技会・県大会について

三年二組 杉山 誠人

私は平板測量競技会の代表選手になるために、二年生の夏休みから三年生の先輩方の練習に参加しました。また、同じクラスの三人も参加し、練習を始めました。しかし、私たちは最初、何をしたらいいか、全く分かりませんでした。そんな中で、先生が基礎から教えてくださいました。やり方を教わりながら先輩方の動きを見て練習を重ねていきました。そして、八月の中旬頃、先輩たちの県大会を見に行きました。先輩たちの測量は、とても正確で速さも十分でした。しかし、ほんの少しの差で県大会優勝を逃したと先生から聞きました。先輩たちは最後笑っていましたが、心の中では悔しい思いでいっぱいだったと思います。

一週間の休みはとてども有意義な日々になりました。一週間たつてまた練習を再開してみると三人とも動きがよく速さも正確性も前と比べると格段に上がっていました。先生からは入賞、優勝は考えないで自分が出来ることをやれば、結果はついてくるからと言われました。私はその通りだと思いました。今までは先輩たちのために必ず優勝しなくちゃいけないとばかり考えていました。しかし、優勝は二の次で自分たちの全力も出せないで優勝なんかは出来ないという最悪の事態になってしまいました。そこで先生から、「一週間練習を休みにするから各自大会に向けて落ち着いて考えてい」と言われました。私は「何でこんな時に休みにするのか」と思いました。大会が迫っているのに練習もせずに休む取るなんて考えられませんでしたが、先生から「いいから休め」と言われたので私は休むことにしました。

一週間の休みはとてども有意義な日々になりました。一週間たつてまた練習を再開してみると三人とも動きがよく速さも正確性も前と比べると格段に上がっていました。先生からは入賞、優勝は考えないで自分が出来ることをやれば、結果はついてくるからと言われました。私はその通りだと思いました。今までは先輩たちのために必ず優勝しなくちゃいけないとばかり考えていました。しかし、優勝は二の次で自分たちの全力も出せないで優勝なんかは出来ないという最悪の事態になってしまいました。そこで先生から、「一週間練習を休みにするから各自大会に向けて落ち着いて考えてい」と言われました。私は「何でこんな時に休みにするのか」と思いました。大会が迫っているのに練習もせずに休む取るなんて考えられませんでしたが、先生から「いいから休め」と言われたので私は休むことにしました。

農業鑑定競技、全国大会を振り返って

三年二組 藤沼 岳志

私は、平成二十七年十月二十一日の、農業鑑定競技会全国大会に参加しました。鑑定競技の勉強は、まず学校から配布された競技の出題範囲を、教科書やインターネットを参考にしながら、ルーズリーフにまとめることから始めました。このノートは六月末から作成を開始しました。反復学習に使用できる程度にまとめることができたのは、大会一ヶ月前の九月でした。農業機械の細かな構成部品など、教科書やインターネットを参照しても記載されていないことがあり、そういった場合は農業機械科の先生方に教えていただくなどして、学習ノートの完成を目指しました。学習ノートの作成を開始したばかりの頃は、出題範囲を見ても分からない部品名が多く、本番までに覚えることができたかどうかと不安でしたが、ノートを作っていくにつれ自然と知識量も増え、少しずつ品名を答えられるようになりました。学習ノート作成の他に、先輩方が残してくれた過去の大会のデータや農業クラブ連盟農業鑑定競技会のホームページ上に公開されている過去問題を利用して、勉強に励みました。

初めは間違えてばかりでしたが、徐々に正答率が上がってくると、理解出来てきたという実感が湧きました。夏季休暇の中で、二回ほど県の農業クラブ連盟が主催した鑑定競技の勉強会に参加しました。そこでは、他校の先生の指導の下、私が苦手としている計算問題について集中的に取り組みました。同じ目標に向く仲間と勉強する感覚は、普段学校で行っている学習とは違い、緊張感とかがつけないやうな気持ちになりました。インターネットでの資料まとめやパワーポイントを使用して勉強している他校の生徒を見て、自分は勉強が足りていないのでは、と危機感を覚えました。同時に、自分も負けていられないという気持ちが湧き、この勉強会以降は自宅でも就寝するまで勉強するようになりました。

大会前日は、何時間かバスに揺られ、ようやく初日の宿がある群馬県伊香保に到着しました。前日のためか、少し緊張していたところ同室の友人誘われ、伊香保の石階段街を登りました。頂上にある神社で本番での成功を祈り、地元では見られない群馬の豊かな紅葉をじっくりと眺め、ホテルに戻りました。おかげで適度に緊張がほぐれ、大会本番に向けて部屋での学習に集中して取り組むことができました。

いよいよ大会三日がやってきました。会場に到着すると全国から集まった農業鑑定競技の選手が大勢おり、自分はこの間に多くの人と競い合うという実感が湧いてきました。緊張のためか控え室での待機時間がとても長く感じられました。

競技本番では、学校で取り組んだ過去問題のような問題が出題され、事前に対策を何度も行ってきた甲斐もあり、あまり緊張せずに解くことができました。その日はホテルに戻り、大会での解答を思い返していると、計算問題や一部の解答が不安になりましたが、最善は尽くしたと自分に言い聞かせ、翌日の大会結果発表に臨みました。

表彰式で自分の名前が呼ばれたときは、信じられま



せんでした。緊張したまま受賞者控え室で、賞状と盾を手渡された時に「自分は最優秀賞を取ったんだ」という強い達成感を感じました。

最後に、私がこの賞を取る事が出来たのは自分の力だけではありません。学習等に協力してくださった先生方のご指導のおかげだと思っています。この大会に向け、努力の結果を残せたという経験は、人生における貴重な財産になったと思います。

特別活動記録(努力の結晶)

全国ホルスタイン共進会出場にて

北見 雅孝

全日本ホルスタイン共進会北海道大会に生徒三名と学校で誕生した乳牛と共に参りました。全国から集まる牛三百七十四頭、出場高二十六校、三十二頭に加わり学校、生徒共に一生の思い出、夢、目標を得ることが出来ました。これまでに農場で過ごされた同窓生、先輩教員方々に感謝すると共に、格別のお力添えを頂いた酪農家の先輩達に心より御礼申し上げます。

出発の前に、お祝いをもち菅合同窓会長と発起人の皆様が来校して下さいました。聞けば有志で声をかけた所、同窓生で現役酪農家の方々全員三十六名が賛同して下さいました。その包みは毎日の搾乳、家族皆さんの手から生まれたものです。後輩を想うその気持ちと酪農家全員という繋がり、有難さに感謝と共に涙し、大きな力と共に出発できました。

乳牛の大会、「共進会」とは泌入能力と共に体型審査という日本登録協会基準に基づき行われます。体型審査、牛群検定、共進会は教科書にも載り日本の家畜改良を支えてきました。日々の積み重ねから全国の酪農家が五年に一度の全国大会を想うことでしょうか。また共進会を通して「牛飼いの魅力、更なる高みへ出会う最高の場」であります。

がえの無い時間だったと思います。こうした同窓生、先輩方のように、いま農業へ進路目標を持つ生徒は増えていきます。これからの農業という産業に向けて、私達がやるべきことは何か、皆様の声を聞き一生懸命、取り組みたいと思います。本当にありがとうございます。



会場と全国の高校生



リードマンコンテスト審査中



審査会場

全日本ホルスタイン共進会に参加して

三年一組 石川 太誠

私は、十月二十三日から二十六日の三日間にかけ行われた全日本ホルスタイン共進会に参加させて頂きました。全日本ホルスタイン共進会とは別名「乳牛のオリンピック」と言われ全国から選ばれたホルスタイン種三百六十頭、ジャージー種四十頭が出場し胸の幅や腰の強さなど体型の美しさを審査されます。今回生徒三人が参加し高校生を対象とするジンギスカンパーティー、毛刈り講習会、リードマンコンテストなど行われる中で、私は農家、高校生関係無く出場する共進会にリードマンとして出場しました。

この大会では未経産牛が一部から五部、経産牛が十部から十四部、ジャージー種、未経産、経産の十部に分かれ私は未経産四部に出場しました。私がこの大会に出場するきっかけは県の予選会です。県の代表として出場するには上位入賞が必要で、全国予選ともあり、綺麗な体格を持つ牛たちが集まり、緊張や不安もありましたが一位を頂き出場権を得ることが出来ました。

全共に向けて春休みから出場牛の体調管理や調教に取り組みました。牛とは言葉のコミュニケーションを取る事が出来ないため大変でした。しかし、調教を続けている内にその日の調子が解るようになっていきました。

最初練習でリードをしてた牛は調教がされてなかった時間で時間が無いことへの焦りから言うことを聞いてくれない悔しさで心が折れかけ先生にも「牛を嫌いなって欲しくないから無理して頑張ることないよ、諦めてね」と言われましたがこのままではいけないと思い調教があり、今更に出場するホクリウウロングワイゴーウインで練習を再開しました。調教がしてあるワイゴーは自分でゆっくりと歩くこと

がで、私自身の力を高めることに専念できました。一番大変だったことは牛の頭を上げる事を数十分キープする事でした。ワイゴーは第四部の牛で自分より背が高く常に腕を上げている状態で今まで使ったことの無い筋肉を使い、すぐ腕が疲れてしまい良く先生にも指摘されました。そしてワイゴーで練習して二週間がたちまだまだリードしきれない状態でしたが先生方に励ましの言葉をかけていただき、リラックサとして本番に入ることができました。結果三十六人中七位に入賞し、とても嬉

全日本共進会リードマンコンテストに参加して

三年一組 安場 終華

私は、十月二十三日から二十六日にかけて北海道で行われた全日本ホルスタイン共進会に出場し、全国高校生リードマンコンテスト、三年生の部で、七位に入賞することが出来ました。このリードマンコンテストに出場する前は、一年も牛をリードしたことが無く、不安と焦りしかなかったものでひたすら練習しました。まず、朝七時には牛舎へ行き一時間練習してから教室へ通っていました。学校が終わってからも練習に取り組みました。

最初練習でリードをしてた牛は調教がされてなかった時間で時間が無いことへの焦りから言うことを聞いてくれない悔しさで心が折れかけ先生にも「牛を嫌いなって欲しくないから無理して頑張ることないよ、諦めてね」と言われましたがこのままではいけないと思い調教があり、今更に出場するホクリウウロングワイゴーウインで練習を再開しました。調教がしてあるワイゴーは自分でゆっくりと歩くこと

全日本ホルスタイン共進会に参加して

三年一組 小林 萌子

私は十月二十三日から二十六日の三日間にかけ行われた第十四回全日本ホルスタイン共進会に参加しました。今回の大会は国内で発生した口蹄疫や東日本大震災の影響で十年振りの開催となりました。また、酪農の本場である北海道の開催であり、大会に参加でき、とても嬉しく誇りに思いました。

ホルスタイン共進会は、未経産牛や経産牛を月齢で細かく分け、牛の骨格や乳房などを審査するものです。大会は県内の共進会と比べ大会の規模や牛の骨格や乳房の大きさ、各都道府県の牛の管理の違いなど様々なことに驚きました。高校生を対象に開かれた、ジャック・ジンクススクールや毛刈り講習会、高校生交流パーティーなどのイベントに参加し、多くのことを学ぶことが出来ました。また、今回の大会で県内の酪農家さんや他校の生徒と話す機会がとて多くありました。お互いの高校のことや日々の実習のことを話し友達になることが出来ました。酪農家の方々は乳房調整のことや酪農家の大変さや楽しさについて話して下さいました。大会に参加するにあたり、産日前の二十日にトラックに荷物を載せ、六時間かけ、八戸港までバス移動し、その後船で北海道まで移動しました。途中で、搾乳作業はさみながら会場に着き、牛を降ろし、エサや

荷物をおろしとても大変でした。会場についてからも、睡眠時間が余りなく辛い思うこともありました。が、周りの友達や先生、酪農家さんに勇気づけられ、助け合い、無事大会を終えることが出来ました。出発から栃木県に帰ってくるまでの八日間とても充実した日々を過ごすことができました。一生の思い出になりました。大会での思い出や学んだことを胸に「卒業後も農業に従事していきたい」と思っています。

最後に参加するにあたって、お力添え頂いた同窓会の方々、諸先生方に深く感謝いたします。ありがとうございます。



審査員と石川君



リードする石川君



出場する安場さん

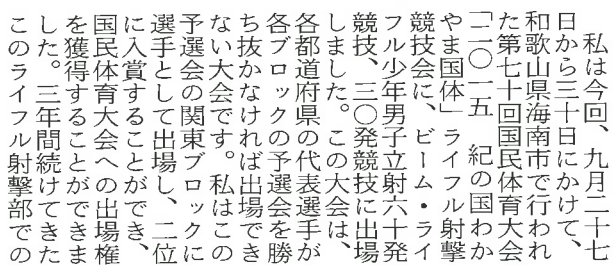


会場前夜祭にて



雑誌の取材

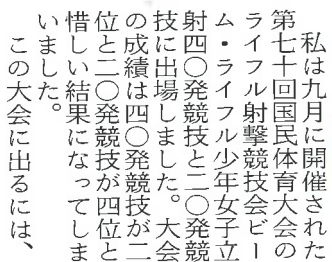
三年二組 伊豆井 拓実



最後の大会として国体に
出場することが決まった
ときは、とても嬉しかった
です。昨年の長崎国体
では、折原先輩が、栃木
県初の二巻を獲得したの
で、今年は自分が折原先
輩の後に続けられるよう
頑張らなくてはと強く思
い、練習に今まで以上
力を入れてきました。い
つも練習で出せていた点
数を本番で出すにはどう
したらいいのか、今まで
経験してきた練習や大会
のことを思い出し、その
経験をもっと活かしてい
くか、など、様々なこと
を試しながら考えてい
ました。いろいろ考えて
いるうちに、国体までの
時間があっという間に過
ぎていき、静岡県での強
行合宿で、最後の調整を
行い、改めて気持ちを引
き締めて、大会に臨みま
した。

和歌山県に來たのは初

二年三組 野口 早也佳



各地区のブロック予選を勝ち抜き出場枠を得なければいけません。そして私は関東ブロックでは二位の選手と同じ点数でしたが試合の内容で判定勝ちを得ることで出場枠を獲得することができました。その後は毎日の練習はもちろん、静岡の射撃場で合宿を行ったりと、国体に向けて強化練習に励みました。そのこともあってか、国体の試合前日の練習では、自己新記録の四二五・八点という高記録を出して万全の状

態で試合へ臨むことができませんでした。

試合当日、一日目は二〇発競技で三位の選手とは〇、一点差と僅差の勝負で、四位に入賞することができました。しかし、それよりも力を発揮できずに上位に入賞することが出来なかったことが悔しくて溜まらないう気持ちでした。

そんな時、部活の仲間達が電話で応援してくれました。今回の大会は同字年の女子が自分しかおらず寂しい気持ちでした。が、電話をもらった時は本当に嬉しかったです。そして一出場できなかったみんなの分まで頑張ろう

う!」と心に決めました。そして試合二日目、私は四〇発競技で八位以内に残り、予選を通過することができました。ファイナルでは試合直前に一言コメントする場面があり、国体に出る前から考えていた一言で「一位を取って帰らなければならぬのでご協力をお願いします。」と他の選手に負けない気持でコメントを決めていました。決意の気持ちでファイナルに臨み、私は最後の二人まで勝ち残り、最終発を残して私が〇・一ポイント得る状況でした。しかし、最後の一発で相手に逆転されてしまい、結果は二



内に入ってやる」という気持ち強く持ち、試合に挑みました。試合では、二シリーズ目までは高調子で撃つことができました。しかし、最終シリーズで慎重になりすぎてしまい、点数を落としてしまいました。それでも、粘る射撃ができたと思ひ、結果を待ちました。そして結果が発表され、三〇発競技では二位に入賞することができ、本当に嬉しかったです。

今回の国体に出場し、いろいろな経験をするのができ、改めて射撃の楽しさを知ることができました。この国体という大きな舞台で射撃ができたことを誇りに思ひ、今回の経験を今後の射撃に活かす、またこの国体という舞台で今回以上の結果が出るように頑張っていきたいと思ひます。

三年三組 栗平 安由美

私は、今回九月二十七日から三十日にかけて和歌山県海南市で行われた第七十回国民体育大会「紀の国わかやま国体」ライフル射撃競技会のエア・ライフル少年女子立射四〇発競技に出場しました。この大会は、各都道府県の代表選手が各地区ブロックの予選会を勝ち抜き出場する大会です。今回、私が国体に出場した種目はストレート種目だったため、強豪選手達とは国体本戦で直接対決することとなりました。私が国体に出場できると知った時は、とても嬉しい気持ちと同時に不

組 栗 平 安由美

安な気持ちになったことを覚えています。昨年国体に出場し素晴らしい成績を収めた先輩達のように撃てるのか悩んでました。ですが、卒業した先輩達や先生から「平なら大丈夫。自分の持ち方でも楽しむ気持ちで撃ておいで」と言って頂き迷いを振り切ることができました。国体前に静県での強化合宿や普段練習を通して気持ちを変え、国体へ臨む意識をめることができた。

国体当日、公式練習は初めて撃つ射撃場にし緊張を抱えながら射し入りました。実際に撃

二年四組 木村圭吾



私は今回、九月二十一日から三十日までにかけて和歌山県で行われた第七十回国民体育大会「紀の国わかやま国体」に出場しました。

この大会は、以前行われた関東ブロック大会で上位に残った選手のみが出場できる大会です。他のチーム・ライフル種目のエア・ライフル種目は団体への出場枠が上位四名に対し、私が出場したデジタル・ピストル種目の枠は半分の二名分しかなく、二年生であった私にとって、大きなプレッシャーになっていました。ブロンク大会が始まる前から、非常に緊張していました。

子ども良く、中々良いスタートを切ることができたのですが、機材トラブルなど、で射座の移動があり、集中がきれてしまい納得のいく点数を出すことができませんでした。結果は二位。国体への切符を手にすることができました。

国体に向けての強化練習として国体出発前には出場するメンバーで合宿を行いました。しかし、関東ブロックの結果を引きずり精神的な疲労から睡眠不足が続いていました。それでも合宿から一日後には東京で行われた大会にも参加して調子を整えるよう努めました。

撃ができ、周囲の環境にも慣れて行くことができました。試合当日、各都道府県の選手が増えたことともあり、予選は緊張から試合のリズムが整わず、スタートから点数を落としてしまいました。その後、中盤戦から持ち直すことができ、なんとか予選を四位で通過し、ファイナルに残ることができました。「ここまで来たらには腹をくくるしかない」と覚悟を決めてファイナルに臨みました。極度の緊張から手足が震えてしまい、今までに撃つたことのない点数を撃つてしまい、そのままファイナルでは最下位の八位



きました。
私は国体に出場して、ますます射撃が好きになりました。これからも射撃を続け、いつかまた国体に出場した際には、ファインナルに残り今大会のリベンジをしたいと思いたいです。

となつてしまいました。
決勝で最初に脱落した私は、フイナルに出場できなかった選手達や団体に参加できなかった仲間達への申し訳なさから涙が止まりませんでした。なによりも自分を応援してくれた方々へ顔向けできなかったと思いましたが、試合後にチーム栃木の人達から救いの言葉をもらい、来年のリベンジを誓うことができました。

今回の大会では過去にない緊張をしました。が、「これ以上ないものを経験できた」と前向きに考え、次からの大会では気楽に撃っていきたいと思います。

三年一組 川崎翔

座入りは緊張しての公式練習でした。選手一人一人大会の射座で練習を行うことができ、調整を整えると共に緊張や周りの雰囲気にならぬに慣れることもできました。しかし、他県の選手達が大勢いて今までに味わったことのないプレッシャーを感じていました。公式練習のおかげである程度気持ちを整えることができて少し楽になったことを覚えています。試合当日、前日の夜のミーティングで先生から「不安はどんな選手でも持っている。だからこそ自分自身との戦いでもある。自信を持て。今まで練習してきたことを思い出して最後まで諦めず粘る射撃をなさい。」と選手達全員に激励した言葉をお願い出し、前向き

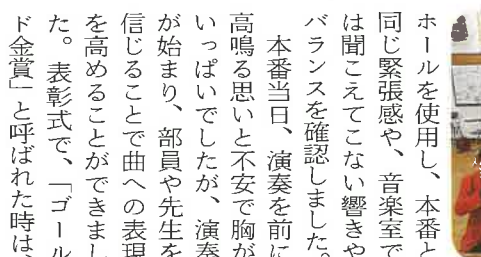
に試合に臨む意識になっていました。私は、エア・ライフルの個人種目に出場しました。射座入りの前に冷静な気持ちであつたことを覚えています。「下を向かず上を向いて精一杯やる！」と心に抱きながら試合に臨みました。結果は、練習通りの射撃はできなかったものの精一杯粘る射撃ができたと思います。三年生にとつて最後の大会でたくさん事を学びました。チームの大切さや諦めなない心を育むことができました。これも射撃を一緒にやってきた同級生や先輩達の頑張りがあったからこそ経験できたことだと思っています。この気持ちを大切にして、この後の生活に活かしていきたいと思っています。

吹奏楽部部长 上杉留美

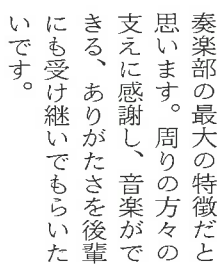
私達、真岡北陵高校吹奏楽部は、顧問の山崎先生・柳先生・栗原先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。毎年夏に行われる吹奏楽コンクールは最大のイベントで、今年も八月八日に宇都宮市文化会館で行われ、二年連続で金賞を受賞することができました。この結果を獲るまでには様々な苦勞がありました。

まず一つ、毎月行われたレッスンです。外部から講師の先生をお招きし、大変熱心な指導をしていただきました。今年は平日の放課後に行われる事が多く、夜遅くまで練習に励みました。最初の頃は、基礎練習ばかりで、早く曲をやりたいと常々思っていました。が、日を追うごとに、やっていることの意味が理解できるようになりました。とても厳しいレッスンでしたが、そこでしか学べないものばかりでした。

二つ目は、ホール練習です。真岡市民会館の大



吹奏楽とは、一人では出来ない音楽です。演奏する人、指導する人、陰で支えてくれている人など、たくさんの方々のおかげで音を奏でることが出来ます。皆で音を奏でるからこそ意味があり、お互いの音を聞いて澄んだハーモニーを響かせられる点は北陵高校吹



進路指導部長 町田 則人

本年度 高校生の求人状況は、好調でした。それは、企業は若い人材を確保し、育てる方向に転換しつつあることと少子高齢化による生産年齢人口の減少が背景にあります。近隣の工業団地の採用担当者は口をそろえて人が集まらないと言います。労働者により賃金の高い所へ移動するそうです。そして、非正規社員は労働者の約四割といわれます。さらに昨年九月に施行された改正労働派遣法では、企業は三年ごとに人を入れ替えれば無

といえます。一方栃木県の最低賃金は七五〇円です。安倍首相は一、〇〇〇円を目標としています。が、まだ足りないと思われれます。アメリカでは、時給十五ドル（一、八〇〇円）に引き上げる動きが広がっています。非正規雇用は、所得水準の高い産業で増えておらず、所得が低い産業で増えています。つまり、人材は給料の低い産業へ移動しているのです。儲かる職業や産業が少なくなってきました。本県の農業人口は六万二千人で一万

宇都宮で「職人祭」職人企業説明会」が開かれました。とび職、住宅産業、屋根工事業など県内の民間企業十一社が集まりました。初めての試みです。このような熟練を要する技術職にはなかなか人が集まりません。設計図を書く人ばかりいても家は建ちません。わたしは食料を作られている人が一番偉いと思っています。国は人材が不足している業界を賃金体制から立て直す仕組みを作り、希望をもてる形にしていく必要があります。

学 科 名	男 子	女 子	合 計
生 物 生 産 科	21	17	38
農 業 機 械 科	38	0	38
食 品 科 学 科	11	28	39
総 合 ビジネス科	9	27	36
教 養 福 祉 科	1	27	28
合 計	80	99	179

	公務員		県内		県外		茨城県		合計	
学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
生 物 生 産 科	0	0	8	11	0	0	0	0	8	11
農 業 機 械 科	1	0	23	0	0	0	2	0	26	0
食 品 科 学 科	0	0	5	17	0	0	1	1	6	18
総合ビジネス科	0	0	8	12	0	0	1	0	9	12
教 養 福 祉 科	0	0	1	14	0	1	0	0	1	15
合 計	1	0	45	54	0	1	4	1	50	56

* 公務員は航空自衛隊

	公務員		県内		県外		茨城県		合計	
学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
生 物 生 産 科	0	0	8	11	0	0	0	0	8	11
農 業 機 械 科	1	0	23	0	0	0	2	0	26	0
食 品 科 学 科	0	0	5	17	0	0	1	1	6	18
総合ビジネス科	0	0	8	12	0	0	1	0	9	12
教 養 福 祉 科	0	0	1	14	0	1	0	0	1	15
合 計	1	0	45	54	0	1	4	1	50	56

	国公立大学		私立大学		国公立短大		私立短大		教育計
学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
生 物 生 産 科			1				1		
農 業 機 械 科			5						
食 品 科 学 科								1	
総合ビジネス科				4				1	
教 養 福 祉 科								3	
合 計	0	0	6	4	0	0	1	5	0

	国公立大学		私立大学		国公立短大		私立短大		教育計
学 科 名	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子
生 物 生 産 科			1				1		
農 業 機 械 科			5						
食 品 科 学 科								1	
総合ビジネス科				4				1	
教 養 福 祉 科								3	
合 計	0	0	6	4	0	0	1	5	0

小 塙	川 上	水 上	猪 野	館
貴 大	達 典	大 嗣	正 子	芳 衛
小 川	青 柳	松 本	野 原	廣 田
秋 喬	達 彦	武 集	理 恵	茂 十郎



編集後記

本年は、日本経済も少しずつ上向いているように、各企業の新規採用状況も、近年になく多くなっているようです。本校卒業の皆様も、希望する職業に就職できますことを望んでいます。